

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	工学院大学
設置者名	学校法人工学院大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
先進工学部	生命化学科	夜・通信	13	0	0	13	13	
	応用化学科	夜・通信			0	13	13	
	環境化学科	夜・通信			0	13	13	
	応用物理学科	夜・通信			0	13	13	
	機械理工学科	夜・通信			0	13	13	
工学部	機械工学科	夜・通信		0	0	13	13	
	機械システム工学科	夜・通信			0	13	13	
	電気電子工学科	夜・通信			0	13	13	
建築学部	まちづくり学科	夜・通信		0	0	13	13	
	建築学科	夜・通信			0	13	13	
	建築デザイン学科	夜・通信			0	13	13	
情報学部	情報通信工学科	夜・通信		0	0	13	13	
	コンピュータ科学科	夜・通信			0	13	13	
	情報デザイン学科	夜・通信	0		13	13		
	システム数理学科 (令和4年度入学生まで)	夜・通信	0		13	13		
	情報科学科 (令和5年度入学生から)							
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学園ホームページに掲載 (Home / 学園情報 / 情報公表)

<https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/disclosure/index.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	工学院大学
設置者名	学校法人工学院大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園ホームページに掲載 https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/index.html
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社建築構造センター取締役会長	2020年5月22日から 2023年6月28日開催予定の理事会まで	卒業生の代表として、学校法人から独立した客観的な立場から経営に対する助言、監督を行うこと。
非常勤	玉川大学教育博物館長・教授	2023年6月16日から 2023年6月28日開催予定の理事会まで	有識者として、学校法人から独立した客観的な立場から経営に対する助言、監督を行うこと。
(備考) 2023年6月28日開催予定の理事会では、次期の理事として、複数の学外者を選出する予定です。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	工学院大学
設置者名	学校法人工学院大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>例年 2月 翌年度の授業時間割及び担当教員を決定 2～3月 各授業担当教員へ、授業計画(シラバス)への入力を依頼 4月1日 学園ホームページにて、全授業科目の授業計画(シラバス)を公表</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://www.kogakuin.ac.jp/student/syllabus_binran/syllabus.html#1</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>全ての授業において授業計画(シラバス)にて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位授与の方針 ・具体的な到達目標 ・受講に当たっての前提条件 ・授業の方法とねらい ・授業内容及び事前学習・事後学習 ・成績評価の方法 <p>等を示し、工学院大学学則第33条及び工学院大学成績評価規程に則り、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、予めシラバスに示した学習成果・到達目標に達しているかを厳格かつ適正に評価し、A+、A、B、C、D、Fの6段階から成る成績評価を認定している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価においてはGPAを用い、工学院大学成績評価規程にて以下の評価基準、算出方法を定めている。

さらに、各学科のGPA分布状況(別添：2022年度1～3年生分)を客観的な指標として学生に公表した上で、指導を必要とする対象学生のGPA値を予め示し、適切な指導を行っている。

<評価基準>

評価	GP	評価基準	可否
A+	4.00	到達目標に達しており、非常に優秀な成績をおさめている	合格
A	3.67	到達目標に達しており、優秀な成績をおさめている	
B	3.00	到達目標に達しており、良好な成績をおさめている	
C	2.00	到達目標に達している	
D	1.00	到達目標に達しているが、習熟を確実にするために再度受講することを推奨する	
F	0.00	到達目標に達していない	不合格

<算出方法>

- ・単位あたりの平均値であるGPAは、各科目の単位数にあてられたGPを乗じたものの総和を、卒業に必要な単位数として算入できる科目の総履修登録単位数で除して算出するものとする。(同一科目を複数回履修した場合には、履修した中で最も高い評価を用いる。)
- ・GPA算出のための対象科目は、本学学則第35条に定める卒業に必要な単位数として算入できる科目とする。
- ・GPAは、小数点以下第3位を四捨五入する。

通算 GPA =

$$\frac{\{(A+\text{の単位数} \times 4) + (A\text{の単位数} \times 3.67) + (B\text{の単位数} \times 3) + (C\text{の単位数} \times 2) + (D\text{の単位数} \times 1) + (F\text{の単位数} \times 0)\}}{\text{入学時から成績評価(不合格を含む)が確定した科目の総単位数(同一科目は1回分を算入)}}$$

入学時から成績評価(不合格を含む)が確定した科目の総単位数(同一科目は1回分を算入)

- ・計算日時点で成績が確定した科目のみ計算対象とする。
- ・小数点以下第3位を四捨五入する。
- ・「不合格科目(含未受験科目)」の単位数は分母・分子両方に含む。
- ・「再履修・レポートした科目」の評価が、従前より高くなった場合、低い評価の単位数は分母・分子両方から除外し、高い評価のみを分母・分子両方に含む。
- ・「再履修・レポートした科目」の評価が、従前より低い、もしくは同じ評価となった場合の単位数は分母・分子両方から除外する。
- ・「履修中止した科目」「教職課程の教職に関する科目、学芸員課程の必修科目などの卒業に必要な単位数に算入されない科目」の単位数は分母・分子両方から除外する。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

https://www.kogakuin.ac.jp/student/syllabus_binran/n03tij0000005572-att/gpa_2023.pdf

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学生の卒業認定については工学院大学学則第 32 条並びに第 35 条により定め、さらに本学の教育研究の目的を踏まえ、学生が身につけるべき能力についてディプロマポリシー（学位授与の方針）を全学科において定め、学園ホームページにて公表している。</p> <p>学位授与方針は各学科カリキュラムにて科目ごとに設定されており、卒業には 124 単位以上を修得することとし、各学部各学科における区分ごとの卒業条件（学則別表第 5）を充足したものについて、学科毎に卒業判定を行っている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/fbb28u0000002ftb-att/reg_5_2023.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	工学院大学
設置者名	学校法人工学院大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学園ホームページ「財務状況」のページにて公表 https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/financial/index.html
収支計算書又は損益計算書	学園ホームページ「財務状況」のページにて公表 https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/financial/index.html
財産目録	学園ホームページ「財務状況」のページにて公表 https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/financial/index.html
事業報告書	学園ホームページ「事業報告」のページにて公表 https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/business_report.html
監事による監査報告(書)	学園ホームページ「財務状況」のページにて公表 https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/financial/index.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画 対象年度:2023年度)
公表方法: https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/plans.html
中長期計画(名称:コンパス2023 対象年度:2018~2023)
公表方法: https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/plans.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:学園ホームページ「自己点検・自己評価」のページにて公表 https://www.kogakuin.ac.jp/about/internal_quality/index.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:学園ホームページ「大学基準協会の大学評価結果」のページにて公表 https://www.kogakuin.ac.jp/about/internal_quality/self_check_2020.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 先進工学部
教育研究上の目的（公表方法：学園ホームページにて公開 https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/purpose_ae.html ）
<p>（概要）本学部は、充実した教養教育により人間と社会と科学技術を多様な視点から捉える眼を養い、さらに自然科学の基本原則を踏まえ、それらと工学との融合による近未来の科学技術イノベーション実現に意欲をもち、社会に貢献するための人間性を兼ね備えた技術者を養成し、高度の研究を進めることとあわせて「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。</p> <p>生命化学科 本学科は、複雑な生命の営みを様々な物質や化学反応との関わりから理解していくことを目指し、化学・生命科学分野の基礎研究およびその応用に携わる。また、その活動を通じて、生命に向き合う倫理観と困難な研究課題に取り組むための基礎的な能力を兼ね備えた生命化学研究者や技術者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。</p> <p>応用化学科 本学科は、『「くらし」を支え「みらい」を拓く化学のちから。』を基礎理念としている。「くらし」を支え「みらい」を拓くための課題に対して、化学の力を使って積極的に取り組むことによって、食品・バイオから次世代エネルギー素材まで、さまざまな産業分野で広く活躍できる健全で幅広い視野、基礎学力、および実践力を備えた化学技術者・研究者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。</p> <p>環境化学科 本学科は、現代社会が直面する問題の解決に資する知の創造とその応用手法の確立を目的とする環境化学の分野において研究に携わり、さらに研究をもとに時代の要請に応じて世界のあらゆる場所で直面する環境に関連する諸現実の問題を解決するための実践的な研究開発能力を持ち、環境化学に関連する幅広い複合的な研究領域で活躍できる技術者、研究者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。</p> <p>応用物理学科 本学科は、現代社会や自然環境が直面する問題の解決に資する知の創造を主に物理学の分野に求め、物理学およびその学際領域への実践的研究に携わることで、この分野の発展に努めその応用手法の確立に貢献する。ひいては、応用物理学における研究活動の成果によって、世界の直面する問題に対処し解決できる技術者、研究・開発者、教育者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。</p> <p>機械理工学科 本学科は、現代社会が直面する問題の解決に資する知の創造と、その応用手法の確立を目的とする機械理工学の分野において研究に携わり、さらに研究をもとに時代の要請に応じて世界のあらゆるところで直面する現実の問題について機械工学を駆使して解決し、ひいてはその活動の指揮を執るための能力を有する技術者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。</p>

卒業の認定に関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開

<https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/diploma.html>）

（概要）

01. 基礎知識の修得

- ・自然科学に関する基礎知識や概念を身につけている。
- ・人、社会および文化に関する基礎的な知識や教養を身につけている。

02. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・学部学科毎に示される専門分野の知識を修得している。

03. 汎用的問題解決力の修得

- ・現代社会の問題から解決すべき課題を抽出でき、それに取り組む姿勢を備えている。
- ・課題解決に必要な論理的思考力や分析力があり、解決策が立案できる。
- ・日本語を用いて、自らの考えを論理的にまとめ、適切に表現できる。
- ・英語を用いて、異文化・多文化の中で基礎的なコミュニケーションができる。

04. 道徳的態度と社会性の修得

- ・自己を律し、継続的に学習して知識や能力を高めることができる。
- ・豊かな人間性を備え、相手を理解・尊重しつつ、チームの成果に貢献することができる。
- ・人間社会と科学技術との関わりを多面的に捉えられ、高い倫理観を持って自らの社会的責任を果たすことができる。

生命化学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・分子レベルでのモノづくりに関して、その設計（合成計画）およびそれを遂行するスキル（実験技術）を身につけている。
- ・細胞の再生や生物資源の有効利用のための遺伝子操作や細胞培養が行えるスキルを身につけている。
- ・細胞を用いた病態のモデルを対象として、合成した医薬シード化合物を活用した実験技術と、生物活性・薬効の解析技術を身に付けている。

応用化学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・さまざまな産業分野で広く活躍できる幅広い視野、基礎学力、および実践力を身に付けることができる。

環境化学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・広範な基礎理論を応用し、独創的な発想で環境に役立つ技術を開発できる。
- ・環境課題を複眼的に捉え、フィールド調査や化学分析のみならず、数学的モデルを立てて定量的な解析を行うことができる。
- ・製品開発から製造工程の管理にまで携われる、社会ニーズのある化学技術者となる。

応用物理学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・現代物理学分野に関する基礎的な知識や教養を身につけている。
- ・物性・材料科学分野に関する基礎的な知識や教養を身に付けている。
- ・物理計測工学分野に関する基礎的な知識や教養を身に付けている。
- ・エレクトロニクス分野に関する基礎的な知識や教養を身に付けている。

機械理工学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・物体に作用する力の関係を理解し、発生する物理現象の把握、物体の変形や破壊の予測、構造物の設計に必要な知識を身につけている。
- ・熱力学、流体力学、機械力学を理解し、各種工業製品の開発に必要な知識を身につけている。
- ・各種工業材料の特長を理解し、製品開発における材料選定の知識を身につけている。機械図面を見て意味を理解することができ、自身で機械製図を行うことができる能力を身につけている。
- ・医療機器の基本を理解し、その特性を考慮した製品開発の知識を身につけている。機械部品、機械設計、情報ソフト、医療器機の産業界における具体的な課題に対して、他方面のアプローチにより、製品改良や新技術の開発・提案を行うことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開
https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/curriculum_ae.html）

（概要）

生命化学科

生命化学科では、化学の知識をベースに様々な生命現象を理解し、また生命の営みをヒントに新しい化学の課題を見出すことができる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、①有機化学、②生命科学、および③ケミカルバイオロジーの3つの分野の履修モデルを学修し、各分野に関する理解と論理的な思考能力を養います。また、演習と実験を通じて化学やバイオテクノロジーについての理解を深めます。そして卒論研究において、それらの知識と技能を活かし、生命現象の解明、生物機能を有する有機化合物の合成、新規天然物の単離構造決定、薬理活性評価、安定な食糧供給を目指した生物機能の利用などの研究を行い、未知の領域へ挑戦する態度や思考の整理の仕方を習得します。

さらに、「第I群」の総合文化科目などを通して、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

応用化学科

化学の力を使って「暮らし」を支え「みらい」を拓く人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、有機化学、無機化学、物理化学、分析化学、および生物化学を基本として、基礎理論、応用力を養う演習、ならびに実践力を高める実験を教授し、化学の力で課題を解決する能力を養います。さらに3年生以降、身の回りの素材や食品・バイオ分野の技術を修得する「生活・食品化学コース」と、高分子化学、触媒化学、ナノテクノロジー、次世代エネルギーなどの最先端技術を修得する「応用化学コース」とを設置し専門性を高めます。

また、「第I群」の総合文化科目などを通して、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

環境化学科

環境化学科は、最先端の化学技術を駆使して環境を保全する技術や、環境負荷の少ない材料・エネルギー技術を開発することができ、持続可能な社会に貢献できる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、化学専門基礎科目（物理化学、分析化学、無機化学、有機化学）を基本として、化学工学における単位操作や装置設計法を教授し、実験・演習を通じて、環境に関連する様々な技術的課題を化学工学の視点から解決する能力を養います。

そのために、卒業研究を通して、環境問題の実態を把握し環境保全・修復に関する技術的課題を解決する方法を修得する「環境システム工学コース」と、環境・エネルギー関連材料やプロセスに関する技術的課題を解決する方法を修得する「環境材料化学コース」と、環境・エネルギーに関する課題を環境影響評価や計算化学を駆使して解決する方法を修得する「環境評価・設計コース」とを設置します。

さらに、「第I群」の総合文化科目などを通して、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

応用物理学科

応用物理学科では、物理学とその関連分野の発展と普及に貢献できる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第2群」の基礎科目を土台に、「第3群」の専門科目で、①物理・応物一般領域、②物性・材料領域、③物理情報計測領域、④エレクトロニクス領域の4つの分野を、それぞれの履修モデルを参考にしつつ幅広く学修し、実験や演習・セミナーを通じて、諸分野に関する理解と論理的な思考能力を養います。

そして、卒業研究を通して、その知識を工学の諸問題に適用し、分析する方法を修得します。さらに、「第1群」の総合文化科目などを通して、自然界や人間社会に対する多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

機械理工学科

機械理工学科では、機械工学の要素技術とコミュニケーションツールとしての英語能力を駆使して、グローバルに活躍できる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、機械系4力学（材料力学、熱力学、流体力学、機械力学）を基本として、英会話を中心とした技術英語の習得、ならびに制御工学やその利用のためのプログラミング、金属材料や医療器機の知識を教授し、各種機械設計や製作、開発にたずさわることができる総合力を講義および実験・実習を通じて養います。

そのために、卒業研究を通して、産業界における具体的な課題に対して解決できる能力を習得します。

さらに、「第I群」の総合文化科目などの講義および演習を通して、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開

https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/admission_ae.html）

（概要）

先進工学部では、最先端の科学技術を開拓し、持続可能な社会の構築に貢献する技術者・研究者の育成を目指しています。高等学校等で学習する内容（特に数学・理科・英語）に関して十分な知識・技能を有し、多様な人々と積極的にコミュニケーションを取りながら協働して課題に取り組むことができる思考力・判断力・表現力を有し、最先端の科学技術に強い興味・関心を持ち、大学院進学も念頭に置いた学修・研究を通して持続可能な社会

の構築に貢献したいと考える意欲あふれる学生を求めます。

先進工学部が求める学生像

- ・ 専門分野の最先端の知識と最先端の専門技術に強い興味・関心を持ち、学修・研究を通して持続可能な社会の構築を目指す意欲がある学生。
- ・ 自身が有する知識・技能を基に課題を発見・設定し、多様な人々と積極的にコミュニケーションを取りながら論理的に考え解決を目指す人材に成長する意欲がある学生。
- ・ 真摯な姿勢で学修・研究に取り組み、多様な意見を認めつつ、技術者・研究者として自己研鑽に励む意欲がある学生。

先進工学部への入学を志望する人は、高等学校等において以下の基礎学力・能力等を身につけておくことが望まれます。

[生命化学科・応用化学科・環境化学科]

数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B）

理科（物理（物理基礎・物理）、または化学（化学基礎・化学）、または生物（生物基礎・生物））

英語（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ）

[応用物理学科・機械理工学科]

数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B）

理科（物理（物理基礎・物理）、または化学（化学基礎・化学））

英語（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ）

生命化学科

生命化学科では、学生と教員が共に、化学の知識・技術を用いて生命に関わるさまざまな課題に取り組みます。そして、生命化学科で行われている教育と研究を通して社会に貢献できる研究者・技術者を育成します。生命現象と化学の関わりに興味をもち、基礎知識・問題解決力の修得に努め、自ら学問に向き合える学生を求めます。

応用化学科

応用化学科は、化学の力を使って「暮らし」を支え「みらい」を拓き持続循環型社会の実現に寄与します。身の回りの素材や食品・バイオ分野の製品開発から、高分子化学、触媒化学、ナノテクノロジー、次世代エネルギーなどの最先端分野で広く活躍できる人材、すなわち、基礎学力と幅広い視野を身につけ応用力を備えた化学技術者や研究者の育成を目指しています。物質と人間生活や地球環境との関わりに強い興味と勉学意欲を持ち、化学の手法を駆使して社会に貢献することを志す学生を求めます。

環境化学科

環境化学科では最先端の化学技術を駆使して、環境を保全する技術や、環境負荷の少ない材料・エネルギー技術を開発することができる技術者・研究者の育成を目指しています。基礎学力と科学的な思考力を備え、実験・実習を通して環境(大気、水、土壌)の実態を捉えて改善する方法を学び、持続可能な社会に貢献したいと考える積極的な学生を求めます。

応用物理学科

応用物理学科では、物理学の基礎理論を系統的に学びながら現代物理学に対する素養を身につけ、物理を応用することを学びます。そして、現代物理学とその関連分野の課題に対して実践的に取り組み、人間社会のために活用できる技術者や教育・研究者の養成をめざしています。自然界の物理空間における森羅万象の不変的な原理・法則だけではなく、21世紀に出現した人間社会が創り上げた情報空間における普遍的な現象・規則にも関心を持

ち、物理的な考え方や手法を用いて社会に貢献することを志す学生を求めます。

機械理工学科

機械理工学科では、国際的にコミュニケーション力を兼ね備えた世界で活躍できる技術者の育成を目的としています。「基礎・専門工学知識（知識力）」を基盤として、幅広い技術問題を理解できる教育を行い、その上で「ものづくり」を楽しむ学科です。コミュニケーションツールとしての英語の向上を目指し、ロボット、車、医療機器、コンピュータ、クリーンエネルギー、航空宇宙などに興味がある意欲あふれる学生を求めます。

学部等名 工学部

教育研究上の目的（公表方法：学園ホームページにて公開

https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/purpose_technology.html）

（概要）

本学部は、充実した教養教育により人間と社会と科学技術を多様な視点から捉える目を養い、さらに実践的かつ幅広い教育を通じて専門家としての科学と技術を身につけ、世界で活躍できる技術者を養成し、高度の研究を進めることとあわせて「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

機械工学科

本学科は、機械の原理やメカニズムのみならず機械の材料や製法についての基礎知識を教授し、新しい機能の機械を効率的、高信頼性をもって設計・製作する独創力、総合力を養う。さらに、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上を図り、実践力を有する技術者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

機械システム工学科

本学科は、機械工学を基本として、横断的科学技術分野を融合させた領域である機械システムの基礎知識を教授し、企画・設計・管理する能力と柔軟な発想能力を養う。また、地球や人間社会における多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上を図ることにより、創造的に活躍できる技術者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

電気電子工学科

本学科は、エネルギー・エレクトロニクス・システムおよびこれらの融合分野において自ら課題を発掘し、解決できる技術者を育成し、科学技術の創成とその応用を図り、もって「持続可能型高度情報化社会の実現」に寄与することを教育研究上の目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開

https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/diploma_technology.html）

（概要）

01. 基礎知識の修得

- ・自然科学に関する基礎知識や概念を身につけている。
- ・人、社会および文化に関する基礎的な知識や教養を身につけている。

02. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・学部学科毎に示される専門分野の知識を修得している。

03. 汎用的問題解決力の修得

- ・現代社会の問題から解決すべき課題を抽出でき、それに取り組む姿勢を備えている。
- ・課題解決に必要な論理的思考力や分析力があり、解決策が立案できる。
- ・日本語を用いて、自らの考えを論理的にまとめ、適切に表現できる。
- ・英語を用いて、異文化・多文化の中で基礎的なコミュニケーションができる。

04. 道徳的態度と社会性の修得

- ・自己を律し、継続的に学習して知識や能力を高めることができる。
- ・豊かな人間性を備え、相手を理解・尊重しつつ、チームの成果に貢献することができる。
- ・人間社会と科学技術との関わりを多面的に捉えられ、高い倫理観を持って自らの社会的責任を果たすことができる。

機械工学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・機械工学の主要分野四力学（流体力学、熱力学、材料力学、機械力学）・材料・設計および加工の知識を身につけている。
- ・四力学や機械製図などの知識を総合し、設計やものづくりの問題解決策を提案できる力を身につけている。

機械システム工学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・機械工学の主要分野（力学・材料・設計・電子機械・生産工学）の知識を身につけている。
- ・システム工学の主要分野（制御／環境／ロボティクス／システム）の知識を身につけている。
- ・機械工学の主要分野に属する機械要素を用いて構成されたシステムの説明ができる。

電気電子工学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・電気エネルギーの発生・利用・輸送、エレクトロニクス応用、計測・制御システムのいずれかの分野に関わる機器・システムの技術課題を解決するための知識を身につけており、かつ、その課題を解決するための手法を習得している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開

https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/curriculumpolicy_technology.html)

機械工学科

ものづくりを中心とした幅広い分野で活躍できる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の数学、物理学などの基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、流体力学、材料力学、熱力学、機械力学など機械工学の主要力学を基本として、機械の原理やメカニズムのみならず機械材料や製作法を講義、実験および演習を通じて修得し、新しい機能の機械を効率的、高信頼性を持って設計・製作する独創力、総合力を養います。

そのために、卒業研究を通して、エネルギー関連の課題の解決方法を修得する「エコエネルギーコース」と、ハードウェア・デザイン関連の課題の解決方法を修得する「メカノデザインコース」とを設置します。

さらに、「第I群」の総合文化科目などを通して、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

機械システム工学科

機械システム工学科では、「機械工学」と「システム工学」の二つの分野を融合させた領域で活躍できる人材の育成を目指して、学習・教育到達目標を定め、1、2年生で学ぶ「第II群」の数学、物理学などの基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で機械工学の主要分野（流体力学、材料力学、熱力学、機械力学などの力学・機構学・材料・設計・電気電子機械・システム工学）を基本として、横断的科学技术分野を融合させた領域である機械システムの基礎知識を講義に加え実験や演習を通じて教授し、企画・設計・管理する能力と柔軟な発想能力を養います。また、「第I群」の総合文化科目などを通して、地球や人間社会における多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上を図ることにより、創造的に活躍できる人材を育成するためのカリキュラムを構成します。

電気電子工学科

電気電子工学科では、持続可能型高度情報化社会において活躍できる人材の育成を目指しています。そのために、「エネルギー」、「エレクトロニクス」、「システム」を柱とした以下のような教育課程を編成します。第I群総合文化科目・外国語科目では、社会の多面的な側面や異文化の理解を深め、本学科で習得する技術と社会の関わりを常に意識できる教養を培います。第II群共通基礎科目では、おもに物理学と数学に関する基礎知識と概念を修得し、これらの応用方法を身につけます。第II群専門基礎科目において電気磁気学、回路理論、電子物性、システム制御の4分野の基礎を学修します。第III群専門科目においては、4分野の発展的な内容を含め、電気電子工学の技術者に必要な知識を修得します。さらに、実験や演習を通じて知識を活用する能力を養います。3、4年次のセミナーや卒業論文では、技術課題について総合的に検討し、他者と討論する力や情報を共有する力も養成します。このように、本学科は、電気電子工学の基礎知識を物理学と数学を活用して修得することに加え、社会人としての教養や論理的な思考力を涵養し、技術的問題の発見とその解決に資する能力が身につく教育課程を編成しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開

https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/admission_technology.html）

（概要）

工学部では、実践的かつ幅広い教育を通じて専門家としての科学と技術を身につけ、論理的かつ多様な視点からものごとを捉え、持続型社会を支える科学技術の発展に寄与する技術者の育成を目指しています。

工学部が求める学生像

- ・数学・理科・英語などの工学を学ぶうえで必要な基礎学力を有し、社会の基盤としての科学技術に強い関心を持っている学生。
- ・適切なコミュニケーションを取りながら自分だけでなくチームとしての知識や能力を高めることができる学生。
- ・技術者としての責務を自覚し国際的に活躍する意欲を持っていることを重視し、自ら積極的に勉学に取り組める学生。

工学部への入学を志望する人は、高等学校等において以下の基礎学力・能力等を身につけておくことが望まれます。

- ・数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B）
- ・理科（物理（物理基礎・物理）、または化学（化学基礎・化学））
- ・英語（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ）

機械工学科

機械工学科では、「基礎学力」だけでなく、「豊かな感性」「柔軟な思考力」「自ら学び、

自分の能力向上を図る意欲」を有し、「コミュニケーション能力」の素養があり、ものづくりに興味を持つ学生を求めます。人間社会や地球・地域環境に配慮して総合的に物事をとらえ、国際的な視野に立つ幅広い知識と技術者倫理を持って、機械工学の専門領域まで見渡すことができる技術者の育成をめざしています。

機械システム工学科

機械システム工学科では、機械要素と知能を組み合わせることで機能化した機械システムの設計や製造、管理などの分野で活躍する技術者の育成を目的とし、機械工学の主要科目をベースに、システム工学、ロボティクス、制御工学などの横断的な科目を学びます。そのため、「基礎学力」だけでなく、「自ら学び、自分の能力向上を図る意欲」を有し、「コミュニケーション能力」などの素養を持ち、ものの仕組みや、動きに興味のある学生を求めます。

電気電子工学科

電気電子工学科では、「エネルギー」、「エレクトロニクス」、「システム」の領域で活躍できる技術者・研究者の育成をめざしています。本学科が対象とする分野は電力、通信、交通、航空、宇宙、環境、医療、安心・安全など多岐にわたり、そこで活躍するには電気磁気、回路、電子物性、システムなどの知識が必要です。そのため、物理・数学の基礎学力を有し、他者と協同して何事にも積極的に取り組める、地球環境と人に優しい心を持つ学生を求めます。

学部等名 建築学部

教育研究上の目的（公表方法：学園ホームページにて公開

https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/purpose_architecture.html)

（概要）

本学部は、充実した教養教育により人間と社会と科学技術を多様な視点から捉える目を養い、さらに実践的かつ幅広い教育を通じて、建築および都市環境の創造・再生と新たに形成されてきている建築関連諸分野が今後求める専門家となる人材を養成し、高度の研究を進めることとあわせて「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

まちづくり学科

本学科は、地球規模の大きな社会状況の変化のもとで、これから私たちがより快適に住み続けられるためのまちの新しいあり方を考え、身近なまちについて考える様々な視点（つくり手・住まい手の両方からの視点）を身につけ、多角的な視点からまちの将来像を構想し、実現していく素養を身につけた人材を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

建築学科

本学科は、安全で快適な生活の場を構築することを目的として、大量生産・大量消費時代の新規供給中心の建築ではなく、安全で環境負荷の少ない生活環境の創造と維持を実現する建築の考え方を教育の中心に据えて、これからの新しい建築のあり方を規定するための高度な要素技術（計画、構造、設備、生産）を身につけた人材を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

建築デザイン学科

本学科は、単に美しいだけでなく、機能的にも優れ、快適で使いやすい、人間のための建築デザインとは何かを考え、新しいデザインのあり方を創造・発信するとともに、環境への配慮や人間の生活の質（Quality of Life）の向上をも考慮した建築の設計・提案をできる人材を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開
https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/diploma_architecture.html）

（概要）

01. 基礎知識の修得

- ・自然科学に関する基礎知識や概念を身につけている。
- ・人、社会および文化に関する基礎的な知識や教養を身につけている。

02. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・学部学科毎に示される専門分野の知識を修得している。

03. 汎用的問題解決力の修得

- ・現代社会の問題から解決すべき課題を抽出でき、それに取り組む姿勢を備えている。
- ・課題解決に必要な論理的思考力や分析力があり、解決策が立案できる。
- ・日本語を用いて、自らの考えを論理的にまとめ、適切に表現できる。
- ・英語を用いて、異文化・多文化の中で基礎的なコミュニケーションができる。

04. 道徳的態度と社会性の修得

- ・自己を律し、継続的に学習して知識や能力を高めることができる。
- ・豊かな人間性を備え、相手を理解・尊重しつつ、チームの成果に貢献することができる。
- ・人間社会と科学技術との関わりを多面的に捉えられ、高い倫理観を持って自らの社会的責任を果たすことができる。

まちづくり学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・基礎的要素技術の内容や相互関係を理解し、活用できる。
- ・多角的な視点からまちづくりを学ぶことで、実現性の高いスキルを身につけている。
- ・実現性の高い、将来の「まち」のあり方を提案できる。

建築学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・基礎的要素技術の内容や相互関係を理解し、活用できる。
- ・建築をつくり、使い続け、資源として循環させたりする高度な要素技術を身につけている。
- ・社会的な課題を背景とした、これからの新しい建築のあり方を提案できる。

建築デザイン学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・基礎的要素技術の内容や相互関係を理解し、活用できる。
- ・環境への配慮や人間の Quality of Life 向上も考慮した建築の設計・提案を行う能力を身につけている。
- ・人間のための建築デザインを学生自身が考えて、新しいデザインのあり方を創造・発信することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開
https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/curriculumpolicy_architecture.html）

まちづくり学科

建築学部では、4年間の教育や卒業研究を通して、「A群」の総合教育科目や自然系基礎科目を土台に、「B群」の専門科目で、講義や実験、演習を通じて、建築の要素技術を修得しつつ、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する専門家を育成します。さらに、まちづくり学科では、まちづくりやスキルに関する多面的知識を理解し、実現性の高い、将来の「まち」のあり方を提案ができる能力を養います。

建築学科

建築学部では、4年間の教育や卒業研究を通して、「A群」の総合教育科目や自然系基礎科目を土台に、「B群」の専門科目で、講義や実験、演習を通じて、建築の要素技術を修得しつつ、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する専門家を育成します。さらに、建築学科では、建築をつくり、災害から守り、環境負荷を低減する高度な要素技術に関する多面的知識を理解し、これからの新しい建築のあり方を提案ができる能力を養います。

建築デザイン学科

建築学部では、4年間の教育や卒業研究を通して、「A群」の総合教育科目や自然系基礎科目を土台に、「B群」の専門科目で、講義や実験、演習を通じて、建築の要素技術を修得しつつ、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する専門家を育成します。さらに、建築デザイン学科では、環境への配慮や人間のQuality of Life向上に関する多面的知識を理解し、人間のための建築デザイン提案ができる能力を養います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開
https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/admission_architecture.html）

（概要）

建築学部は、以下のような学生を求めます。

- ・ 建築・都市に強い興味がある学生。
- ・ 自ら学べる主体性があり、難しい問題にも粘り強く解決へ向けて努力できる学生。
- ・ 自分と異なるさまざまな考え方を受け入れ、理解しようとする気持ちがある学生。

建築学部への入学を志望する人は、高等学校等において以下の基礎学力・能力等を身につけておくことが望まれます。

建築は、都市の問題の解決（社会）、最先端の技術（数学・理科）から芸術的デザイン（文化・芸術）まで、さまざまな分野が融合するところです。また人とのコミュニケーション（国語・英語）が必要な分野です。従って建築学部では、1・2年生は共通カリキュラムで全分野の基礎を学びます。国語、英語、数学、理科、社会を確実にバランスよく学んでおいて下さい。建築学科では、数学や理科の学力・能力が特に求められます。

まちづくり学科

「まち」は建築の集合体であり、多くの人々の生活の場でもあります。まちづくり学科では、建築の基礎を学んだ上で、行政による都市計画から市民主体によるまちづくり、環境と共生したまちや安全・安心に暮らせるまち、さらに広域のランドスケープなどを学びます。建築と関わり、人々の生活と関わりながら、「まち」のことや「まちづくり」のことを学びたいという意欲的な学生を求めます。

建築学科

災害の多発、地球温暖化、高齢化やデジタル技術の活用などの課題の解決が望まれています。建築学科では、これらの課題を解決する新しい建築のあり方を規定するための高度な技術（計画、構造、設備、生産）を学びたいと考える好奇心旺盛な学生を求めます。

建築デザイン学科

用途に適し、機能的で快適な建築を創造する。建築デザイン学科では建築の意匠のみならず、住宅・店舗の内インテリアデザイン、高齢者等に配慮した福祉住環境デザイン、重要な建造物の保存・再生に関わるデザインなど、あらゆる空間について学びます。都市や建築、文化や芸術にも興味があり、人を豊かにする建築を学びたい想像力豊かな学生を求めます。

学部等名 情報学部

教育研究上の目的（公表方法：学園ホームページにて公開

https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/purpose_informatics.html)

（概要）

本学部は、充実した教養教育により人間と社会と科学技術を多様な視点から捉える目を養い、さらに実践的かつ幅広い教育を通じて情報がリードする高度情報化社会の時代に、人間が安心して快適に生活していける社会を構築していくための情報技術者を養成し、高度の研究を進めることとあわせて「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

情報通信工学科

本学科は、情報社会の基盤であるネットワーク・通信・デバイス技術について、その動作原理から応用システムまで幅広く理解することができ、さらには人と自然環境との共存という長期的視点に立って情報社会の高度化に寄与できる技術者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

コンピュータ科学科

本学科は、進化を続けるコンピュータシステムを理解し、それを活用して大規模で複雑な情報を処理・加工する技術を習得し、情報の安全な利用を可能にする技術者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

情報デザイン学科

本学科は、人とコンピュータとの調和を保ち、豊かな感性と情報技術に基づく新たな情報化社会を創造できる技術者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

システム数理学科・情報科学科

本学科は、企業情報システム、社会情報システムを理解し、企業や社会が必要とする情報システムを構築するとともに数理的な思考力を用いて、ビッグデータを扱う実践的なデータ科学を習得し、経営戦略、マーケティング、企業情報戦略をリードできる技術者を育成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開

https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/diploma_informatics.html)

(概要)

01. 基礎知識の修得

- ・自然科学に関する基礎知識や概念を身につけている。
- ・人、社会および文化に関する基礎的な知識や教養を身につけている。

02. 専門分野の知識・専門技術の修得

学部学科毎に示される専門分野の知識を修得している。

03. 汎用的問題解決力の修得

- ・現代社会の問題から解決すべき課題を抽出でき、それに取り組む姿勢を備えている。
- ・課題解決に必要な論理的思考力や分析力があり、解決策が立案できる。
- ・日本語を用いて、自らの考えを論理的にまとめ、適切に表現できる。
- ・英語を用いて、異文化・多文化の中で基礎的なコミュニケーションができる。

04. 道徳的態度と社会性の修得

- ・自己を律し、継続的に学習して知識や能力を高めることができる。
- ・豊かな人間性を備え、相手を理解・尊重しつつ、チームの成果に貢献することができる。
- ・人間社会と科学技術との関わりを多面的に捉えられ、高い倫理観を持って自らの社会的責任を果たすことができる。

情報通信工学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・情報通信工学に向けた数学の知識を有し、工学問題に応用することができる。
- ・電子回路および電子デバイスに関する知識を有し、工学問題に応用することができる。
- ・通信ネットワークに関する基礎知識を有し、工学問題に応用することができる。
- ・デジタルメディアやソフトウェアに関する基礎知識を有し、工学問題に応用することができる。
- ・情報通信工学に関わる知識を活用し、課題の分析と解決案を実証できる。
- ・電気通信に関わる法規や知的財産についての知識を有している。

コンピュータ科学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・情報社会、情報システムの変化に対応できる計算機の基本概念を身につけている。
- ・情報社会、情報システムに対応できる基礎知識を身につけている。
- ・情報システム、情報機器に対して、プログラミングの知識を応用できる。
- ・情報システムにおけるソフトウェアの企画、設計、運用に対応することができる。
- ・情報システムを用いた種々の応用に取り組むことができる。
- ・情報システムの情報セキュリティ構築の基礎を理解できる。

情報デザイン学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・人と情報社会についての包括的な知識を身につけている。
- ・人間の認知的側面を理解し、未解決の問題を適切に解くことができる。
- ・デジタルコンテンツの情報社会での応用ができる。

- ・社会や個人から得たデータの特性を理解することができる。
- ・社会や個人から得たデータの分析方法を考慮することができる。
- ・情報社会の問題解決方法と道すじを論理的に説明できる。

システム数理学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・情報システムのアーキテクチャ/方式設計ができる。
- ・情報システムの機能/非機能設計ができる。
- ・数理統計に基づくデータの分析ができる。
- ・実社会の問題を解くためのアルゴリズム設計ができる。
- ・社会や企業の問題に対する ICT を活用した解決方法を設計できる。
- ・ビジネスモデルや企業戦略と関連した ICT の活用方法を設計できる。

情報科学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・情報システムのアーキテクチャ/方式設計ができる。
- ・情報システムの機能/非機能設計ができる。
- ・数理統計に基づくデータの分析ができる。
- ・実社会の問題を解くためのアルゴリズム設計ができる。
- ・社会や企業の問題に対する ICT を活用した解決方法を設計できる。
- ・ビジネスモデルや企業戦略と関連した ICT の活用方法を設計できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開
https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/curriculum_informatics.html）

情報通信工学科

情報通信技術を応用する立場で課題の発掘と解決ができる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、電子回路および電子デバイス、通信ネットワーク、デジタルメディアやソフトウェアの基盤技術を教授し、実験・演習を通じて工学問題への応用力を養います。

そのために、卒業研究を通して、「通信・ネットワーク」「情報メディア」「スマートデバイス」とを専門に修得するコースを設置します。

さらに、「第I群」の総合文化科目などを通して、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

コンピュータ科学科

コンピュータ科学科では、情報化社会になくしてはならないコンピュータの高度活用ができる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、情報システム、ソフトウェア開発手法、画像・音声認識などの応用、情報セキュリティの基本について教授し、実験・演習を通じて情報化社会のコンピュータ・システムをマネジメントする力を養います。

そのために、卒業研究を通して、「ソフトウェア」「コンピュータ応用」「情報セキュリティ」を専門に修得するコースを設置します。

さらに、「第I群」の総合文化科目などを通して、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

情報デザイン学科

情報デザイン学科では、人に優しい情報社会をめざし情報の効率的・効果的な利用法を適格にデザイン・開発できる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、情報ネットワークや画像・音に関わる情報処理を基本として、人と情報社会のつながりを教授し、実験・演習を通じて情報社会の問題を発見・解決する情報デザイン力を養います。そのために、卒業研究を通して、「人間情報」「コンテンツ設計」「知識情報」の柱を専門的かつ複合的に修得するコースを設置します。

さらに、「第I群」の総合文化科目などを通して、社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

システム数理学科

システム数理学科では、企業や社会が必要とする情報システムを企画、構築し、運用できる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、ITインフラに関する基礎的要素技術、実践的システム構築、データ科学、経営情報学の基本を教授し、実験・演習を通じて実社会の課題を抽出し、それを解決するためのITシステムを提案できる能力を養います。

そのために、卒業研究を通して、「情報インフラ」「経営情報」「データ科学」の柱を専門的かつ複合的に習得するコースを設置します。さらに、「第I群」の総合文化科目などを通して、社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

情報科学科

情報科学科では、企業や社会が必要とする情報システムを企画、構築し、運用できる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、ITインフラに関する基礎的要素技術、実践的システム構築、データ科学、経営情報学の基本を教授し、実験・演習を通じて実社会の課題を抽出し、それを解決するためのITシステムを提案できる能力を養います。

そのために、卒業研究を通して、「情報インフラ」「経営情報」「データ科学」の柱を専門的かつ複合的に習得するコースを設置します。さらに、「第I群」の総合文化科目などを通して、社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開

https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/admission_informatics.html)

（概要）

情報学部では、高度情報社会の実現に向けた中核となる情報技術者の育成を目指しています。そのために数学、プログラムなどの基礎学力をベースに、専門技術を体系的に学修します。さらに、実験、演習などを通じて、自ら問題を発見し、解決していく能力を身につけます。情報学を基軸として情報・通信の各種システムの仕組みや社会の多くの課題に関心を持ち、自ら積極的に勉学に取り組むことができ、さらにはグローバルに活躍する志を持った学生を求めます。

情報学部が求める学生像

- ・情報通信技術（ICT）を軸に、高度なシステムを企画・構築・運用することで豊かな社会を築く志を持ち、ICTを支える理論や科学的アプローチにより社会課題の解決に関心を持って学修を進める意欲のある学生。
- ・問題を発見し、解決する技能を、主体的に多様な人々と連携して身につける能力を持つ学生。
- ・社会の多様な課題に関心を持ち、立場や意見の異なる人々と協働して作業できる能力を

持つ学生。

情報学部への入学を志望する人は、高等学校等において以下の基礎学力・能力等を身につけておくことが望まれます。

- ・数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B）
- ・理科（物理（物理基礎・物理）、または化学（化学基礎・化学））
- ・英語（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ）

情報通信工学科

情報通信工学科では、将来の情報通信、情報メディア、情報デバイスに関わる上で必要となる総合的な基礎学力、柔軟な応用力及び創造力を兼ね備えた人材の養成を目標として掲げています。このため、上記3分野に必要となる学力を養い、その上で専門教育を修得します。現在は漠然としたものでも構いませんが、情報技術に少しでも興味があり、かつ将来に夢を持ってこの分野に関わる面白い仕事をしてみようという学生を求めます。

コンピュータ科学科

コンピュータ科学科は、情報化社会にはなくてはならないコンピュータの利用を通して、人類社会に快適な生活環境を提供できる技術者の育成を目指しています。今や私たちの社会に欠かせないコンピュータの仕組み・基本技術や、ソフトウェア、コンピュータ応用、情報セキュリティ等への興味を持ち、数学的な基礎学力を持って国際的に活躍することを志す学生を求めます。

情報デザイン学科

情報デザイン学科は、柱としてコンテンツ設計、人間情報処理、知識情報処理の三分野を掲げ、デジタルコンテンツ作成技術を理解し、人の行動を正しく分析でき、情報の効率的・効果的な利用法を的確にデザイン・開発できる技術者の育成を目指しています。豊かなコミュニケーション能力と共に数学的な基礎学力と柔軟な思考力を持ち、学科の掲げる柱を構成する分野に興味と熱意を持って、知識と技術の修得に意欲的に取り組める学生を求めます。

情報科学科

情報科学科では、データ分析、人工知能等の統計やモデル化技術に基づいて「問題の発見」「問題の分析」を実行し、「問題の解決」可能な情報システムの設計や提案ができる技術者を育成します。最先端のICT活用に向け、社会、経済、科学の広い分野に対する興味とその問題解決に自らが持つ技術の適用領域拡大と、日々変化する技術を継続的に修得に対する意欲を有する学生を求めます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：学園ホームページにて公表

<https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/disclosure/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
先進工学部	—	24人	21人	1人	4人	1人	51人
工学部	—	25人	15人	0人	1人	0人	41人
建築学部	—	28人	7人	0人	2人	0人	37人
情報学部	—	23人	15人	0人	1人	0人	39人
教育推進機構	—	17人	15人	1人	1人	0人	34人
総合研究所・ 教育支援機構	—	7人	0人	13人	0人	0人	20人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			385人				385人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：学園ホームページにて公表 https://er-web.sc.kogakuin.ac.jp/scripts/websearch/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
先進工学部	365人	373人	102.2%	1,460人	1,528人	104.7%	若干名	2人
工学部	379人	380人	100.3%	1,516人	1,564人	103.2%	若干名	4人
建築学部	345人	354人	102.6%	1,380人	1,443人	104.6%	若干名	1人
情報学部	310人	329人	106.1%	1,240人	1,392人	112.3%	若干名	9人
合計	1,399人	1,436人	102.6%	5,596人	5,927人	105.9%	若干名	16人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
先進工学部	321人 (100%)	106人 (33.0%)	202人 (62.9%)	13人 (4.0%)
工学部	353人 (100%)	96人 (27.2%)	235人 (66.6%)	22人 (6.2%)
建築学部	303人 (100%)	81人 (26.7%)	201人 (66.3%)	21人 (6.9%)
情報学部	305人 (100%)	66人 (21.6%)	229人 (75.1%)	10人 (3.3%)
合計	1282人 (100%)	349人 (27.2%)	867人 (67.6%)	66人 (5.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社、エーザイ株式会社、NEC ネットエスアイ株式会社、株式会社大林組、カゴメ株式会社、鹿島建設株式会社、株式会社関電工、KDDI株式会社、コクヨ株式会社、清水建設株式会社、株式会社SUBARU、ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社、大和ハウス工業株式会社、テルモ株式会社、東京エレクトロン株式会社、東京電力ホールディングス株式会社、株式会社東芝、TOTO株式会社、凸版印刷株式会社、トヨタ自動車株式会社、株式会社ニコン、株式会社日建設計、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社日立製作所、株式会社ブリヂストン、本田技研工業株式会社、三菱重工業株式会社、株式会社村田製作所、山崎製パン株式会社、ヤマハ発動機株式会社 など				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>全ての授業において授業計画（シラバス）にて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位授与の方針 ・具体的な到達目標 ・受講に当たっての前提条件 ・授業の方法とねらい ・授業内容及び事前学習・事後学習 ・成績評価の方法 <p>等を示し、工学院大学学則第 33 条及び工学院大学成績評価規程に則り、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、予めシラバスに示した学習成果・到達目標に達しているかを厳格かつ適正に評価し、A+、A、B、C、D、F の 6 段階から成る成績評価を認定している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>学生の卒業認定については工学院大学学則第 32 条並びに第 35 条により定め、さらに本学の教育研究上の目的を踏まえ、学生が身につけるべき能力についてディプロマポリシー（学位授与の方針）を全学科において定め、学園ホームページにて公表している。</p> <p>学位授与の方針は各学科カリキュラムにて科目ごとに設定されており、各学科の卒業条件として定める所定の修得単位数を充足することで卒業認定を行っている。</p>

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
先進工学部	生命化学科	124 単位	有・無	単位
	応用化学科	124 単位	有・無	単位
	環境化学科	124 単位	有・無	単位
	応用物理学科	124 単位	有・無	単位
	機械理工学科	124 単位	有・無	単位
工学部	機械工学科	124 単位	有・無	単位
	機械システム工学科	124 単位	有・無	単位
	電気電子工学科	124 単位	有・無	単位
建築学部	まちづくり学科	124 単位	有・無	単位
	建築学科	124 単位	有・無	単位
	建築デザイン学科	124 単位	有・無	単位
情報学部	情報通信工学科	124 単位	有・無	単位
	コンピュータ科学科	124 単位	有・無	単位
	情報デザイン学科	124 単位	有・無	単位
	システム数理学科 (令和 4 年度入学生まで)	124 単位	有・無	単位
	情報科学科 (令和 5 年度入学生から)			
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kogakuin.ac.jp/campus/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
先進 工学部	全学科 (1年)	1,000,000円	250,000円	530,000円	その他: 施設設備料 31万、実験実習料 10万、休学中の学費 12万
	全学科 (2年)	1,000,000円	250,000円	560,000円	その他: 施設設備料 32万、実験実習料 12万、休学中の学費 12万
	全学科 (3年)	1,000,000円	250,000円	590,000円	その他: 施設設備料 33万、実験実習料 14万、休学中の学費 12万
	全学科 (4年)	1,000,000円	250,000円	620,000円	その他: 施設設備料 34万、実験実習料 16万、休学中の学費 12万
工学部 建築学部 情報学部	全学科 (1年)	1,000,000円	250,000円	510,000円	その他: 施設設備料 31万、実験実習料 8万・休学中の学費 12万
	全学科 (2年)	1,000,000円	250,000円	540,000円	その他: 施設設備料 32万、実験実習料 10万、休学中の学費 12万
	全学科 (3年)	1,000,000円	250,000円	570,000円	その他: 施設設備料 33万、実験実習料 12万、休学中の学費 12万
	全学科 (4年)	1,000,000円	250,000円	600,000円	その他: 施設設備料 34万、実験実習料 14万、休学中の学費 12万

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学術情報センター 工手の泉 (ICT サービス) 教育・研究のための共同利用情報処理設備や、基幹ネットワークの管理・運用を行っている。 ・ 学術情報センター 工手の泉 (図書館サービス) 教育研究の拠点として、新宿・八王子両キャンパスに図書館を併設している。工学・自然科学分野を中心とした蔵書、及び今和次郎コレクションなどの貴重資料を所蔵している。 ・ 学習支援センター 基礎科目 (数学・物理・化学・英語) について、高校時に充分理解しないまま終わってしまった科目と大学の授業の橋わたしをする基礎講座と、一人ひとり質問や疑問に応える個別指導を行っている。 ・ 教育開発センター 学士課程教育の改革と質の向上を実現するため、全学的な教育方針と教育施策の企画・開発及び教育改善に係わる情報収集・研究を継続的に行っている。 ・ 科学教育センター 「若者の理科離れ」や「科学教育の危機」といわれる日本の局面に向き合い、本学が独自に構築した『新しい教育システム』としての科学教育振興事業を進めてきた。科学イベントでの大学生・大学院生ならびに中・高大院連携校の生徒諸君の支援参画も加え、学内外を問わない科学教育活動を展開している。

・ものづくり支援センター

常時4名の技術指導員が加工に関する指導・助言や安全教育、工作機械の管理業務などを行っており、加工実習・演習などの授業の他、研究活動や学生プロジェクト活動などにおいて多くの学生や教員に利用されている。学生が自ら設計・加工を行なうことで成長し、多くの成果も得られている。

・ハイブリッド留学

ハイブリッド留学[®]は、学生が海外へ挑戦するきっかけとして、工学院大学が開発した、日本初、そして独自の留学プログラムである。留学のハードルを下げ、まずは“海を渡る”ことで海外での経験値を高め、異文化にふれ、理解し合う経験を通して、グローバルな視点を養う。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

政府が主導する就活ルール（学部3年生・修士1年生の3月に求人情報公開、6月に採用試験解禁）を念頭において、それらが始まる前に就職活動の準備を整えられるよう、進路選択に関わるガイダンスや就業意欲の醸成につながる各種行事を実施している。

・キャリア教育の実施

学部1年次から、基礎的な実践能力を身につけるため少人数で行う総合文化アカデミックスキルやロジカルライティング等の科目を設け、また、低学年向けのインターンシップ科目も配備するなど、早い段階から主体的にキャリアを意識させつつ専門性を身につけられるような教育を行っている。

・多様な就職支援プログラム

「大学・大学院での学び、専攻を活かしたキャリア形成・就職支援」を支援方針として、学業・研究と就職活動を効率的にバランス良く実践できるようにプログラムを構成している。

また、2020年度から全ての就職支援プログラムはオンラインを組み合わせ実施し、オンデマンド型では、学生が視聴したいタイミングで参加することも可能としている。

学部3年生・修士1年生の学生を対象に、4月から定期的（計3回実施4月・9月・翌1月）に「就職ガイダンス」を開催し、その期間中の行動計画が立てられることを到達目標に設定している。また、“業界・企業研究”、“履歴書・ES作成”、“筆記・面接試験対策”となるプログラムを定期的実施し、学生が目的やねらいを理解しながら進め、学生自身が考えて納得した進路選択が出来るような支援を行っている。

特に単位認定型インターンシップ（本学と協定を締結した企業での2週間以上のインターンシップで授業科目名「学外研修」）と自由応募型インターンシップへの参加を推進しており、「インターンシップのための業界・職種・企業発見（5月）」や「ESの書き方（5.6月）」に加えて「インターンシップ参加のためのビジネスマナー講座（7月）」などの講座や添削サービスを実施している。

また、“業界・企業研究”として「業界・企業研究／企業発見講座（10月）」や卒業生や採用担当者による「業界・企業研究イベント（10月から）」を数多く実施し、「オンライン合同企業セミナー（2月）」では学生と企業の接点づくりに力を入れている。

採用選考に直接関係する支援プログラムとして、“履歴書・ES作成”は就職支援部スタッフやキャリアカウンセラーとの個別相談以外にも「志望動機の書き方（10月）」「エントリーシート添削（11月）」などを行い、“筆記・面接試験対策”では「筆記試験対策講座（6月・11月）」「事例で学ぶWEBマナー・面接対策（12月）」など複数回実施している。他にも年間を通じて外部の資格予備校による「公務員試験対策講座」をオンラインで実施している。また、ダイバーシティ推進を継続し、就職支援部と学生支援課が連携しながら「留学生の就職活動スタートガイダンス（6月）」「障がい学生のためのキャリアガイド

ス（7月）」を実施している。

・就職支援センター

就職支援活動の最前線基地として、在学生のキャリア形成や就職活動を積極的に支援している。就職相談や情報収集、企業と学生の交流の場となるセミナー実施など、多目的に活用されている。

就職支援部は専任職員 8 名を中心にして新宿・八王子両キャンパスで学生に対する就職支援を行っている。特にコロナ禍における 2020 年 4 月緊急事態宣言発令のタイミング以降、学生の入構制限や企業の採用活動の変化に即座に対応し、すべての就職支援をオンラインで対応出来る体勢を整え、窓口での対面対応と併用している。

学生の就職相談には専任職員に加え、キャリアカウンセラー（計 5 名：通年 1 名、相談繁忙期 4 名）を配置している。また、臨床心理士の資格を有するカウンセラー（週 1 日、1 名）を配置し、合理的な配慮を必要とする学生への細やかな対応をしている。新宿区と八王子市から新卒応援ハローワークのカウンセラー（週 1 日、各 1 名）を配置している。これらの就職支援部が対応する個別相談は、年間で約 2,000 件となっている。

また、ダイバーシティに対応した学生支援の充実（留学生・障がい者など）に取り組んでいる。留学生に対しては、学事部学生支援課と連携しながらガイダンスやオンラインコンテンツを強化し、障がいやメンタル的なサポートの必要な学生に対しては、学生相談室（所管：学事部学生支援課）との定期的な学生動向の情報共有など、きめ細かな対応を行っている。なお、既卒者に対しても、登録制で既卒者求人票の公開やハローワークのカウンセラーからの求人情報の提供などの支援体制を整えている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

・学生支援課

修学支援、生活支援、健やかで安全・安心な学生生活に向けた支援を具現化する業務をおこなっている。具体的には、アパートの紹介や落とし物など学生生活に関すること、けがをしたので保険の請求をしたいときや悪徳商法に引っかかったなどの相談事に関すること、奨学金や学費の延納など経済的なこと、構内で掲示や立て看板を出したいといった課外活動に関すること、学内施設や学寮などの大学施設や備品の利用についてなどの学生からの問い合わせに対応している。

・学生相談室

精神面でケアが必要な学生には臨床心理士の資格を持つカウンセラーが対応している。さらに、専門的かつ集中的な治療を必要とする場合は校医を通じて、医療機関を紹介している。

・健康相談室

看護師の資格を有する職員が、学内で日々発生する学生の身体の不調や事故などによる怪我に対応、学生の間診票、健康診断結果を活用して適切な処置を行っている。2022 年度は、健康相談室の目的や組織を記した「工学院大学健康相談室規程」を制定した。

・障がい学生への対応

バリアフリー化、キャンパス内環境整備はもちろん、普段の学内における行動支援をはじめ、他方面にわたる支援態勢を用意している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.kogakuin.ac.jp/theme/performance.html>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310102993
学校名	工学院大学
設置者名	学校法人工学院大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		321人	308人	340人
内 訳	第Ⅰ区分	185人	177人	
	第Ⅱ区分	85人	96人	
	第Ⅲ区分	51人	35人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				340人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	-		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	-		
「警告」の区分に連続して該当	-		
計	21人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	-		
GPA等が下位4分の1	-		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	38人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。